

関わる人全てに愛される味 幸せを届けるバウムクーヘン

ドイツ発祥のお菓子・バウムクーヘンが日本に上陸して今年で100年目。そんな年に、オープン1年目を迎えたバウムクーヘン専門店「エレファントリング」が人気を集めている。



バウムクーヘン(直径約13cm)
Sサイズ(高さ3cm)2,160円・Mサイズ(同6cm)3,780円

上質な北海道産小麦粉に選び抜いた卵や砂糖、バターを使い、膨張剤などの添加物は使用しない。その代わりに卵白を泡立てたメレンゲが、きめ細やかで口当たりの優しい生地を作り出す。焼き上げには手動のオープンを使用。回転する芯に専用の道具で生地をつけ、オープンに入れ、窓から焼き色を見極めては取り出して生地をつけるという作業を繰り返し、美しい層を作る。その数20回以上、時間にして約1時間。250度以上のオープンの目の前で熱気を浴びながら、片時も目が離せない。「膨張剤を使えば、自動で放っておいてもきれいに焼けますが、この生地の場合は、気を抜くとシミのような色がついてしまいます」と話すのは職人の池田勇二さん。手間がかかるため、朝5時から作り始め、師匠と2人で焼き続けても1日で作れる数は9本が限度だ。

レシピは高齢になる師匠の秘伝。かつて師匠は別の場所でバウムクーヘン店を営んでいたが、後継者もおらず閉店間際だった時に、以前から取引があった食料品のバイヤー代行業務などを行う会社「スマイルサ

ークル」社長に相談をした。「こんなにおいしいレシピがなくなるのは惜しい」と、同社が運営を引き受けて継続させることを提案し、池田さんが弟子入り。幸象の鼻が描く幸せのシンボル「エレファントリング」を店名にし、昨年10月、移転オープン。オープン前後は、厨房の場所が変わったことにより、気温や湿度、気圧の変化の影響で味も微妙に変化し、調整するのに苦労した。今は安定しているが「天気などによって生地の状態が変わるので、毎日、焼き方を変えています」と池田さん。

試食用に切り分ける販売員も、色や食感の変化に気づくと池田さんたちに報告するのだとか。「従業員は全員、うちの商品が一番おいしいと思っています。この味を1人でも多くの人に届けたいですね」とブランドマネージャー・西尾亜衣さんは話す。関わる人全てに愛されるバウムクーヘンからは、幸せの香りが漂う。

エレファントリング

芦屋市大槻町4-20-1 ASHIYA CENTRAL BUILDING 1F

CULTURE
コラム
VOL.4

梅花から「令和」を込めて

「日本語を漢字だけで書いてみると…」

奈 良時代の日本語は、固有の文字を持ちません。書き留めることが求められると、漢字だけを使って記す文化が育まれました。いわゆる万葉仮名(まんようがな)が、その代表です。『万葉集』巻七には「摂津にして作る」と題した中に、次のような歌が記されています。

命幸久吉石流垂水々乎結飲都

一一四二番歌

五七五七七で読むことを考えると、どこで区切ったらよいか…。初句を「命」だけで捉えてみると、「いのち」に二文字を読み添えます。「命幸」と二文字で読んでみると、「いのちさき」と字余りになります。うまく読み通すことのできない歌を、私たちは難訓歌(なんくんか)と呼んでいます。幾通りかの読み方が試されていますが、仮に「命をし幸(さき)く(久)吉(よ)けむと石流(いははじる)垂水(たるみ)の水を結びて飲みつ(都)」と読んでみましょう。「(私の)命が無事で良い状態にありますようにと(祈りながら)、岩の上を勢いよく流れ落ちる滝の水を、(手で)寄せ合わせて(すくって)飲みました」と訳すこと

ができそうです。作者は旅の道中なのでしょうか。自らの命が健やかであることを、激しく流れ落ちる滝の水を飲んで、祈願したことを歌にしています。

「垂水」は滝の普通名詞ですが、地理的な特徴は地名にもなります。吹田市には垂水町を探すことができます。垂水神社には、『万葉集』から志貴皇子(しきのみこ)の歌(巻八・一四一八番歌)が、碑として建立されています。また、神戸市には垂水区を見つけられます。平磯緑地には何首もの万葉歌碑が建立されており、一一四二番歌も読むことができます。

作者はどこの滝の水を飲んで、命をつなぐことを願う歌を詠んだのでしょうか。

梅花女子大学教授 市瀬 雅之

現代訳から原文までを用いて『万葉集』に文学を楽しむほか、『古事記』や『日本書紀』等に日本神話や説話、古代史をわかりやすく読み解く。中京大学大学院修了 博士(文学)。著書に『大伴家持論 文学と氏族伝統』おうふう 1997年、『万葉集編纂論』おうふう 2007年、『北大阪に眠る古代天皇と貴族たち 記紀万葉の歴史と文学』梅花学園生涯学習センター公開講座ブックレット 2010年。ほか執筆・講演・講座多数

俳句
HAIKU
VOL.4

10月25日締切りで「投句いただいた中から、山口昭男先生に入選作品を選んでいただきました。

【優秀賞】

口笛を吹けばコスモス揺れにけり

明石市 角谷 徳美

不思議な句です。口笛を吹いたことでコスモスが反応して揺れたということ。実際は偶然のことなのでしょうが、俳句で表せば口笛の音色に誘われてコスモスの花が揺れはじめたということになります。素敵です。

【入選】

点滴を終えて粥出るクリスマス

西宮市 岡田 昭弘

クリスマスの季語でクリスマスの雰囲気を感じていないのがよいです。

わつと来てわつと逃げ去る稲雀

神埼郡 西 敬介

稲雀の動きを的確に描きました。俳句のひとつの基本です。

秋のけはい感じて猫が現れる

西宮市 飯野 理恵

猫も秋が来たのがわかるのです。猫の動きで秋を感じるのもまた二興です。

雲流るトンボ自由を知りつくし

芦屋市 石井 直子

蜻蛉が自由に飛んでいます。この自由さに作者は憧れているのです。

水の音の聴き入りたるは紅葉かな

京都市 野咲 蓮華

巧みな句です。水の音も聞いている人物もすべて紅葉になつていくようです。

【佳作】

知る人ぞ知る一郭の帰り花

豊中市 安藤 知明

学ランの鉢巻跳ねて秋高し

茨木市 山下美穂子

奥飛騨の天高ければ谷深し

長岡京市 藤堂 邦雄

蜻蛉群れ酒蔵壁に影うつし

西宮市 柴原 祐子

早朝の駆け抜ける道秋の風

吹田市 前川 裕行

【つぶやき評】

俳句で詠んだことがあっても本当のこのように読み手に伝わることはありません。この詩的真実を探つてゆくこともまた俳句の魅力です。俳句には様々な顔があります。だから俳句は面白いのです。



1955年 神戸市生まれ。
1980年「青」に入会。波多野爽波に師事。2000年「ゆう」入会。田中裕明に師事。編集担当。2010年俳誌「秋草」を創刊し主宰する。毎月発行。句集に『書信』『讀本』『木簡』がある。2018年句集「木簡」で読売文学賞受賞。日本文藝家協会会員。

選者
山口 昭男
(やまぐち あきお)

【俳句の応募方法】

氏名・住所・年齢・明記のうえ、ハガキ、封書、FAX、下記の応募フォームのいずれかから応募ください。

【宛先】

〒566-0001 大阪府摂津市千里丘1-13-23
株式会社シティライフNEW 俳句係まで
FAX 06-6368-3505

【応募フォーム】

<https://pro.form-mailer.jp/fms/f413b102177160>



※締め切りは毎月25日必着 ※いずれも一人5句まで
※掲載は次々号となります
※佳作は掲載をもって発表とさせていただきます。
※お名前と作品を掲載します。

北朝鮮人権侵害問題啓発週間 ～情報提供にご協力を～

協力:兵庫県警察

12月10日から16日までの1週間、「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」となっている。拉致問題はテレビやニュースの中の話ではなく、身近に起こっている可能性も。この機会に関心と認識を深めよう。

【北朝鮮による「拉致被害者」】

日本人の拉致被害者17人と、日本国内から拉致された朝鮮籍の姉弟2人の計19人とされている。そのうち、兵庫県関係の拉致被害者は有本恵子さんと田中実さんの2人とされている。

【拉致の可能性を排除できない行方不明者】

「北朝鮮に拉致されたのではないか」と家族から相談や届出を

受け、「拉致の可能性を排除できない行方不明者」として警察で捜査・調査しているのは全国で879人。そのうち、兵庫県警察が主として捜査・調査しているのは36人となっている。

【情報提供にご協力を】

北朝鮮による「拉致被害者」や「拉致の可能性を排除できない行方不明者」について事案の概要や顔写真を兵庫県警察のホームページに掲載している。

どんな些細なことでも、心当たりのある方は、兵庫県警察本部外事課、もしくは最寄りの警察署の警備課まで連絡を。



兵庫県警察本部外事課

TEL.(078)341-7441(代表)

詳しくは 兵庫県警察 拉致問題 で検索